



リアルタイム被害予測 cmap.dev(シーマップ)のアプリ公開と新機能追加について

2020年8月26日

MS&ADインシュアランスグループのあいおいニッセイ同和損害保険株式会社（代表取締役社長：金杉 恭三）は、リアルタイム被害予測ウェブサイト「cmap.dev（シーマップ）」（以下 cmap）に、災害に関する緊急情報の通知機能を備えたスマートフォン向けアプリ「被害予測アプリ cmap」を公開しました。合わせて、ウェブサイト・アプリ共通の新機能としてリアルタイム浸水危険度推定情報を追加しました。

1. 被害予測アプリ cmap について

(1) 開発背景

内閣府（防災担当）の「避難指示等に関するガイドライン」が2019年3月に改定され、“住民が「自らの命は自らが守る」意識を持って自らの判断で避難行動をとり、行政はそれを全力で支援する”という方針が示されました。近年、大規模な自然災害が多発していることから、当社は、有事の際により役立つ情報を提供するため、災害に関する緊急情報の通知機能を備えたスマートフォン向けアプリ「被害予測アプリ cmap」を株式会社ジェイアイズ（代表取締役社長：岡本 哲史）と共に開発しました。どなたでも無料^{*1}でご利用いただけるアプリです。

※1 アプリのサービス利用料は無料です。ただし、本サービスにかかわる通信料は利用者の負担となります。

<参考①>スマートフォン画面イメージ

登録画面



cmap (ウェブサイト)



周辺避難場所のマッピング



(2) アプリの概要

気象警報や避難指示等の緊急情報^{*2}を通知します。国内2地点まで登録できるため^{*3}、利用者の現在地および登録地点の情報に基づき、最大で3つの都道府県の緊急情報を受信できます。これにより、

遠方にお住まいのご家族等が直面している状況もリアルタイムで確認いただけます。また、自治体指定の緊急避難場所を地図上に表示する機能もご利用いただけます。

※2 災害発生時の気象警報等や、自治体等が発信するLアラート®（災害情報共有システム）の情報です。Lアラート®の詳細は総務省のホームページを参照ください。

https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/ictseisaku/ictriyou/02ryutsu06_03000032.html

※3 郵便番号を用いて登録しますが、緊急情報は都道府県単位で通知します。例えば東京都渋谷区恵比寿の郵便番号を登録した場合、東京都内の気象警報・避難指示等を通知します。

<参考②アプリの主な機能>

①	災害時の緊急情報を通知	現在地および予め登録した国内2地点の緊急情報を通知（最大3地点）	
②	指定緊急避難場所の表示	自治体指定の緊急避難場所や避難施設を表示（最大3地点）	
③	cmapのピンポイント表示	現在地情報に基づき、利用者の市区町村を画面中心に表示	
④	各種情報提供	被災前	防災・減災に役立つ情報を当社からご案内
		被災後	当社のご契約者にご利用いただける、自然災害の事故受付専用ホームページURL（24時間365日受付）をご案内

2. 新機能「リアルタイム浸水危険度推定情報」について

(1) 新機能搭載の背景

自然災害発生時の建物被害をリアルタイムで予測するウェブサイト cmap は、台風・豪雨・地震による被災建物数や被災率を市区町村毎に予測して地図上に表示、無償で一般公開しています。2020年6月には、建物の風災被害を台風上陸前から予測開始する機能や、洪水や土砂災害等の警戒レベル4・5相当地域を明滅表示する機能、洪水や土砂災害のハザードマップをいつでも重ねて表示できる機能を追加しました。

一方、事前予測が難しい洪水については、より早いタイミングの参考情報を望む声が多く寄せられていました。そこで今般、東京大学生産技術研究所および国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)が「Today's Earth - Japan」※3で公開中のリアルタイム浸水危険度推定情報について、cmapでも表示できる機能を追加しました。ウェブサイトでも被害予測アプリでも利用いただけます。

※3「日本中の河川をいつでも誰でもモニタリング!〜『Today's Earth - Japan』を公開〜」2019.11.29

<https://www.iis.u-tokyo.ac.jp/ja/news/3193/>

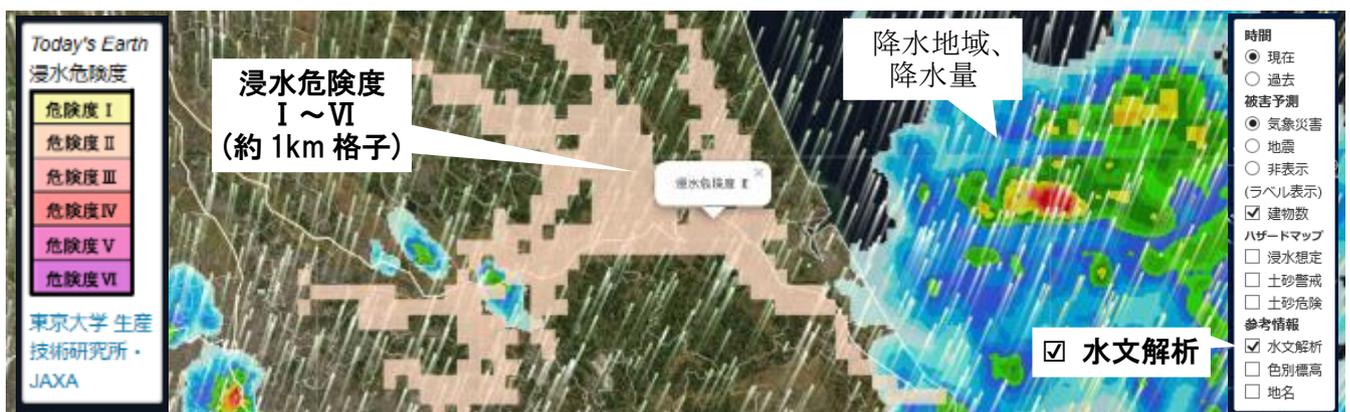
(2) 水文(すいもん)解析の概要

河川流量・許容量や河川周辺の土壌水分量等、陸上の水循環に関わる50種類超のデータから浸水危険度をリアルタイムで推定し、約1km格子で可視化しています※4。

浸水危険度をI(増水の可能性あり)~VI(極めて危険)の6段階に分類、早い段階から危険度Iが表示され浸水の可能性を把握できるため、情報が少ない発災直後の参考情報として有用です。

cmapの開発を担うVesta株式会社(ヴェスタ、代表取締役:岡崎 豪)によってToday's Earth - Japanからcmapへのリアルタイム連携が実現したもので、ウェブサイトでも被害予測アプリでも利用いただけます。

※4 数時間先の予測ではなく現在の危険度推定です。自然状態における水の動きを計算したもので、ダムの操作や堤防の効果といった人為的水管理の影響などは考慮していません。また、cmapの建物被害予測には使用していません。



3. 今後の展開

今後も、皆さまから寄せられた声をもとに、防災・減災に役立つツールとなることを目指し、更なる開発を進めていきます。

◆cmap アプリのインストール方法

以下の二次元コードを読み取り、インストールしてください。

App Store	Google Play
	

◆今回の新機能追加による URL の変更はありません。引き続き cmap をご活用ください。

	cmap (リアルタイム被害予測) https://cmap.dev (従来通り)
--	---

以上

当社は、社会との共通価値を創造し、目指す社会像である「レジリエントでサステナブルな社会」を実現するため、SDGs (持続可能な開発目標) を道しるべとし、地域の皆さまに貢献する活動を行ってまいります。

